

# 天王遺跡 発掘調査説明資料

財団法人山形県埋蔵文化財センター

## 調査要項

遺跡名	天王遺跡(てんのういせき)	
所在地	山形県南陽市大字漆山字天王・塚原二	
遺跡番号	平成8年度登録(分24-30-2)	
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所	
調査原因	国道113号線赤湯バイパス改築	
現地調査	平成18年5月10日～平成18年11月17日	
調査面積	6,500㎡	
遺跡種別	集落跡	
時代	奈良平安時代・中世	
遺構	溝・堀・井戸・土坑・柱穴等	
遺物	土師器・須恵器・中世陶磁器・木製品・石製品	
調査担当者	調査研究部長	尾形與典
	調査研究主幹	長橋 至
	専門調査研究員	伊藤邦弘
	調査研究員	高橋一彦(調査主任)
	調査研究員	高桑 登
調査協力	山形県教育庁置賜教育事務所 南陽市教育委員会	

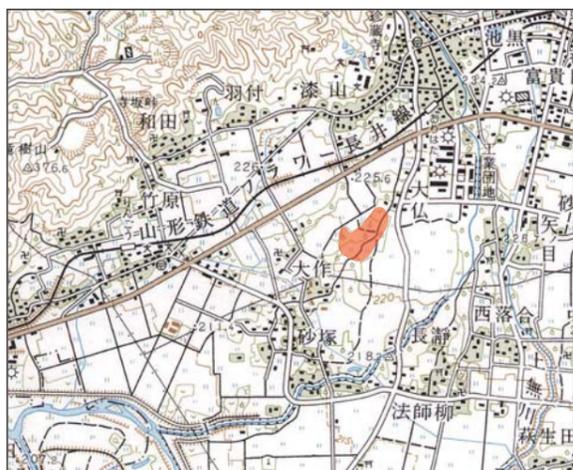


図1 遺跡位置図(1/50,000)



調査区全景(南東から)

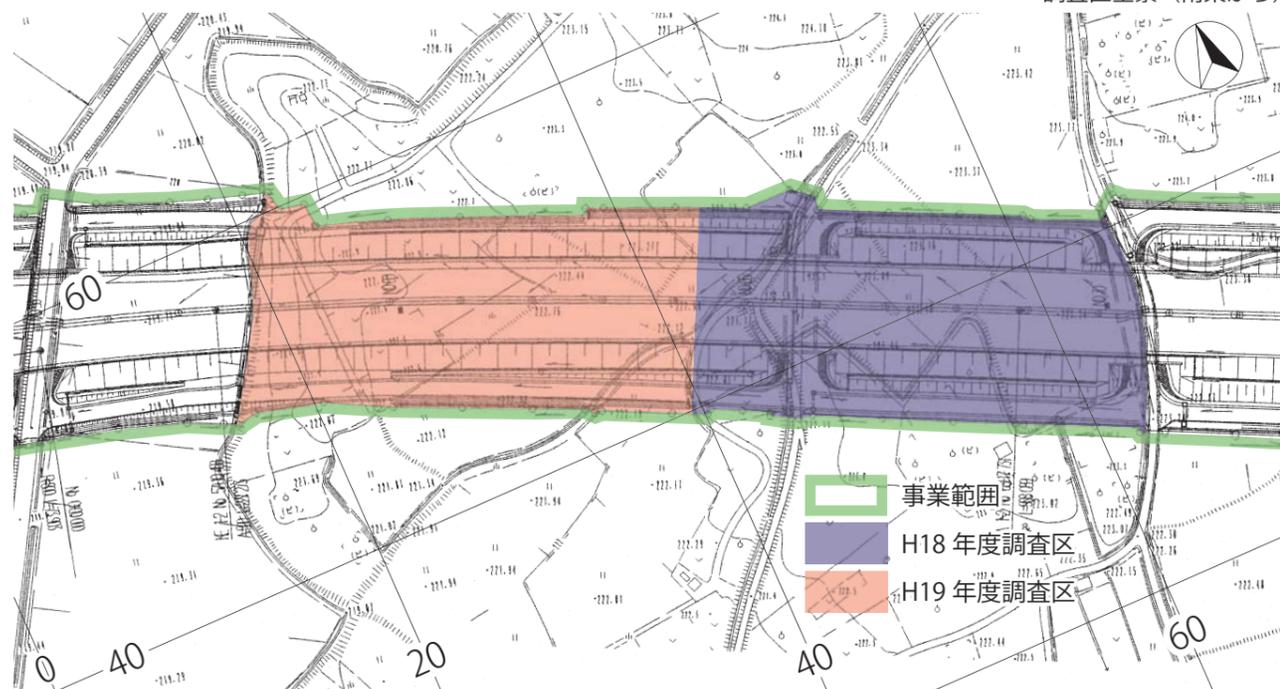


図2 調査区概要図(1/2,000)

## 1 調査の概要

天王遺跡は南陽市宮内の熊野大社から南西約4kmに位置しています。遺跡の中央には、近くの砂塚集落から宮内に抜ける古くからの道が通っています。遺跡の北側は、遺跡が立地する微高地が低地に向かって半島状に張り出しています。そこに地元の方が「テンノウさま」と呼ぶ祠があり、遺跡名の由来にもなっています。遺跡の北東の大仏(おぼとけ)集落には山形県指定文化財の「文和三年阿弥陀板碑」などの板碑が分布しています。

調査は事業に係る遺跡の面積13,000㎡のうち6,500㎡を対象に実施しました。来年度残りの6,500㎡の調査を行なう予定です。

## 2 遺構と遺物

調査区の西側で館の堀が見つかりました。堀は幅約8m、深さ約1mの規模で、人為的に埋められていました。堀の一部は幅が狭くなっており、館の出入り口と考えられます。「テンノウさま」を屋敷敷とする大規模な方形館の可能性がります。方形館の中心は、調査区北側の果樹畑付近と考えられます。堀からは板碑や中世陶磁器など、おもに中世前半の遺物が出土しています。

堀の東側には柱穴や井戸が数多く見つかりました。館の前面に集落があったと考えられます。柱穴や井戸は周辺より

やや高く水はけのよい場所に集中しています。低地の部分からは調査区を横断する溝が見つかりました。調査区の南西部からは細い溝が並んだ畝状遺構がまとまって見つかりました。畑の跡と考えられます。

大規模な堀で囲まれた館の前面に、柱穴・井戸が集中する居住域と、畝状遺構が分布する生産域が展開する景観が復元できます。

遺物の多くは堀と溝から出土しました。かわらけ、珠洲、瓷器系陶器、青磁、古瀬戸などの中世陶磁器、木筒や曲物などの木製品、砥石や茶臼などの石製品が出土しています。13世紀から14世紀頃の中世前半のものが中心です。

また、堀の最上層から板碑が出土しました。置賜地方に多い家型(かたてん)板碑と呼ばれるものです。遺跡の近くに立つ文和三年阿弥陀板碑とあわせ、板碑を立てた人々と今回見つかった館や集落の住人との関連がうかがえそうです。

また、縄文時代、古墳時代、奈良平安時代の遺物も出土しています。周辺にその時代の遺跡があると考えられます。

## 3 まとめ

今回の調査では中世の方形館と集落が見つかりました。見つかった遺構や遺物は、周辺に残る石造物や地名などとあわせて、地域の歴史を考える上で貴重な資料となります。

最後に調査にご協力いただいた関係機関、地元の方々、作業員の皆様に感謝申し上げます。



珠洲



瓷器系陶器



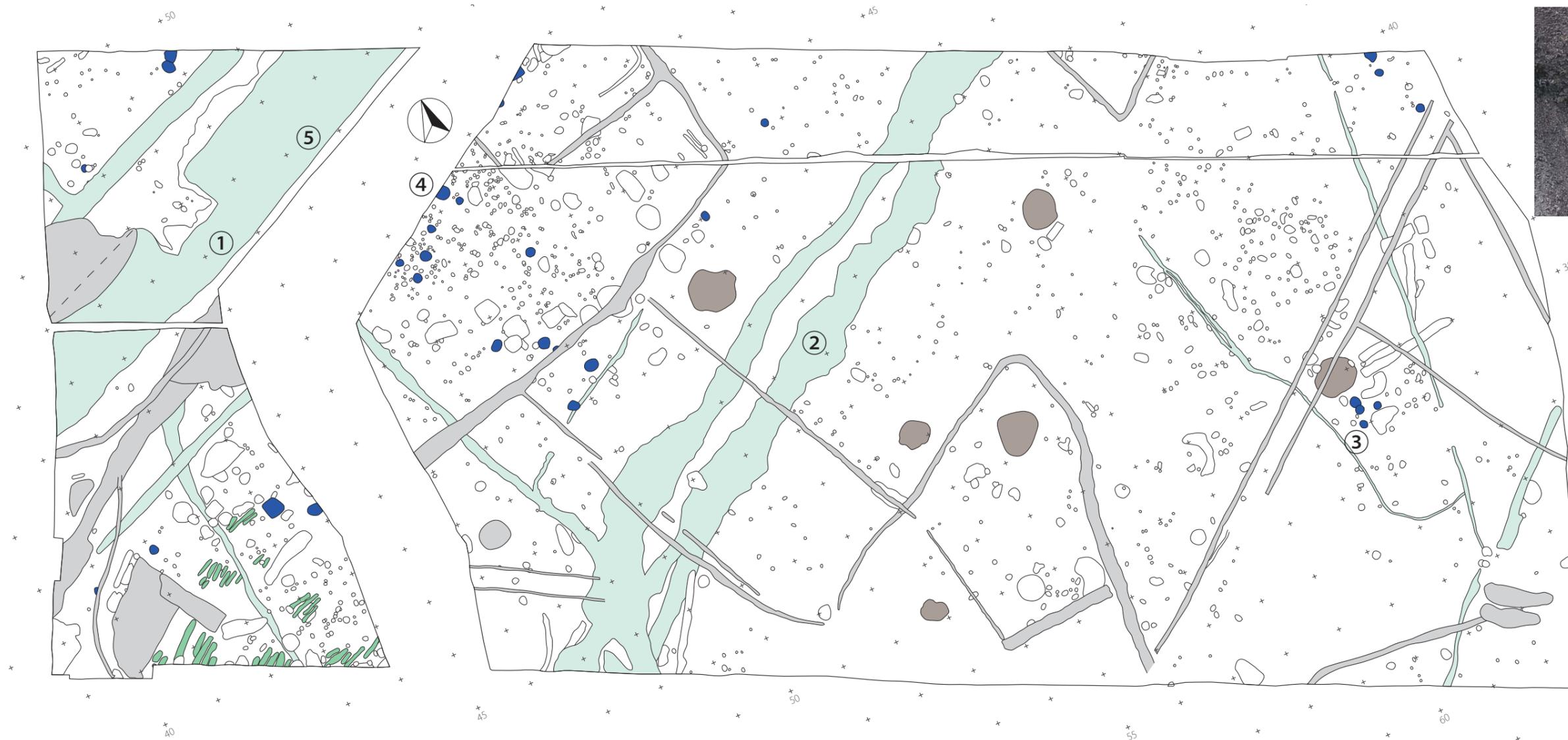
古銭・瀬戸美濃・かわらけ・青磁



茶臼



① 幅約8m、深さ約1mの堀跡が見つかりました。2列目の人の部分は幅が狭まっており、② 調査区中央で見つかった2条の溝跡です。左側の溝が埋まった後に、右側に掘りなおされていたようです。中世の遺物が出土しています。(北東から)  
 ③ 深さ1mほどの土坑から曲げ物の底板が出土しました。井戸跡と考えられ入出入口と考えられます。(北東から)



④ 茶臼が出土した様子です。土坑の底に置かれたような状況で出土しました。



⑤ 堀跡から出土した板碑です。2基並んで彫られていたと考えられます。

堀・溝      風倒木  
 井戸      攪乱  
 畝状遺構

図3 遺構配置図 (1/400)